

もっとよい会社に！ もっとよい社会に！
一緒に進もう！がんと仕事の両立支援
就労セミナー in 山形



日時

2022年10月6日（木）
13:30-16:00

定員 80名
参加費 無料

会場 山形商工会議所・大ホール
山形市七日町3-1-9

＜専用駐車場がありませんので、公共交通機関や付近の有料駐車場をご利用ください＞

「がんと仕事の両立支援」は今日、企業規模を問わず、重要なテーマになっています。がんは今日、治り得る病気、長く付き合える病気に変わりつつあります。その中で企業が両立支援を行うことは、人材の確保・定着に加え、社員の安心感やモチベーションの向上、多様な人材の活用による組織の活性化などにもつながります。本セミナーでは、山形県内の事例を取り上げながら、がんと仕事の両立支援について皆様と一緒に考えてまいります。ぜひご参加ください。

9月30日までに以下の公式サイトからお申込みください。

<https://jcsurvivorship.net/event-20221006>

右のQRコードからも申し込みできます。

（定員に達し次第、締め切らせていただきます）

お問い合わせ先 contact@jcsurvivorship.net



※当日は、マスクの着用、検温、消毒にご協力をお願いいたします。

主催 NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク
株式会社西村工場

後援 山形市、山形商工会議所、山形新聞・山形放送

※ 本イベントは、公益財団法人正力厚生会の助成を受けて開催いたします。

プログラムと登壇者

第一部 13:30-14:50

■ 基調講演 治療と仕事の両立支援の現状と今後の展望



高橋 都(たかはしみやこ)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事,
岩手医科大学医学部客員教授, 東京慈恵会医科大学医学部客員教授

一般内科医として10年勤務後, 東京大学大学院 国際保健学を経て, 複数大学の社会医学系教員として勤務。2013~20年に国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援部長として研究や情報発信に取り組む。この間、2017年に胆管がんの夫を自宅で看取る。定年退職後, NPOがんサバネットを設立。

■ 講演 人材を守る『健康経営のススメ』 ～がんと向き合う従業員と共に居ること～

小島 俊一(こじましゅんいち)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク理事, 元気ファクトリー株式会社代表取締役,
中小企業診断士・産業カウンセラー

経営者として「働く仲間は企業の財産」をモットーに, がんサバイバーも守り, 疲弊する地方書店の再建を果たす。現在は, 講演会活動や中小企業向けコンサルタントとして, 働く人や中小企業に元氣と勇気を届けている。



■ 事例紹介 山形県内企業の取組事例

島藤 諭完(しまとうつぐひろ)

株式会社西村工場 代表取締役CEO, (一財)山形県社会保険協会評議員

現職に転職後3ヶ月で, 急性骨髄性白血病と診断を受ける。現在無治療経過観察中。やまがた健康推進機構「がんサロン クローバー」や山形県立中央病院でピアサポーター活動を行う。社内では治療と就労の両立支援の実践を担っている。



■ 講演 両立支援における医療機関の活用・連携方法



鈴木 理恵(すずきりえ)

山形大学医学部附属病院 がん相談支援センター, がん看護専門看護師

大学卒業後, 北里大学病院および山形県立中央病院に勤務。2009年聖路加看護大学大学院看護学研究科修士課程修了(がん看護専門看護師資格取得)。2014年より山形大学医学部附属病院に勤務。現在はがん患者さんとご家族への相談支援に向けて組織横断的な活動を行っている。

第二部 15:00-16:00

■ パネルディスカッション がんと仕事の両立支援を進めるには ～様々な立場から考えるポイントと留意点～

パネリスト 高橋 都 小島 俊一 島藤 諭完 鈴木 理恵



村本 高史(むらもと たかし)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク副代表理事, サッポロビール株式会社人事部 プランニングディレクター

頸部食道がん経験者。社内では2014年秋より専門職として, 社内コミュニケーション強化や, 治療と仕事の両立支援策を推進してきた。厚生労働省「がん診療連携拠点病院等の指定検討会」構成員も務めている。

総合司会 秋山 美紀(あきやま みき)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク副代表理事, 慶應義塾大学教授

専門は健康とコミュニティ。2007年に山形県鶴岡市に「からだ館」を開設し, 以来, がん情報サポートやがん患者コミュニティの運営をしてきた。自身もがん経験者。

